

松下幸之助記念財団 研究助成  
研究報告

【氏名】 周 倩

【所属】(助成決定時) 東京大学大学院学際情報学府

【研究題目】 <ミドルクラス>のメディア・イメージとその意味  
—「高度経済成長期」における日中新聞の比較分析を通じて—

【研究の目的】

本研究は、既存の階層階級研究と区別し、社会構築主義的見地から、<ミドルクラス>の実在性と客観性に対する判断は下さず、メディア研究の分析手法を用いて、マスメディアの<ミドルクラス>に対する様々な描写を分析することによって、また<ミドルクラス>をめぐる諸言説活動の継起的な流れを追尾することを通じて、<ミドルクラス>のイメージの形成とその意味について考察するものである。

本研究は日本と中国のマスメディアによって構築された<ミドルクラス>とは、一体いかなるものなのかを解明し、「国家のイデオロギー装置」としてのメディアのなかで、<ミドルクラス>が時代の政治性と戦略性を帯びながら、いかに生成され、合成され、組み替えられ、定型化されてきたかといった具体的様態を明らかにする。また、そういった具体的な作業を通じて、<ミドルクラス>のメディア・イメージの背後に潜む国家・社会の諸力学を歴史的に解き明かし、そこでの諸意味を探究する。さらに、社会的表象となった<ミドルクラス>のメディア・イメージと社会での実在との対応関係を考察しながら、学問的言説の布置の中に置かれた既存の<ミドルクラス>概念を組み替えることを狙い、階層階級研究とメディア研究をつなぐ、マクロとミクロ双方の観点を歴史時代的・有機的に統合した<メディア学的ミドルクラス研究>の樹立を目指す。同時に、日中という異なる政治体制を持つ社会における<ミドルクラス>のイメージのズレ、時代の中における両イメージの連続性と断絶性、必然性と偶然性、そこでの政治的・戦略的な意味の発見を課題とし、日中のメディアと社会分析に対する比較作業を通して、<ミドルクラス>の表裏を明らかにし、資本主義の史的発展の様態を考察する目標を掲げている。

【研究の内容・方法】

『<ミドルクラス>のメディア・イメージとその意味——「高度経済成長期」における日中新聞の比較分析を通じて』という研究テーマを掲げ、「<ミドルクラス>とは何か」という問題に対して、従来の階層階級研究における<ミドルクラス>の定義と判別方法を細かく考察し、<ミドルクラス>をめぐる問題状況を十分に把握することから研究を開始した。そこで、独自の「<ミドルクラス>の理解モデル」を提示し、メディア研究と階層階級研究の「ミッシング・リンク」を再確認した上で、日中両国のメディア上における<ミドルクラス>のイメージを質的・量的に分析することを通じて、<ミドルクラス>概念を問い直し、そこに投影されている諸問題を究明した。具体的には、「高度経済成長期」における日本(1955年～1973年)と中国(2001年以降)の新聞メディアに注目し、内容分析と言説分析を通じて、そこに現れた<ミドルクラス>のイメージが、いかなるものなのかを明らかにするとともに、<ミドルクラス>のメディア・イメージの構造も解明した。また、日中両国における<ミドルクラス>のメディア・イメージを比較分析することによって、そこに見られた六つの共通点を明らかにし、その原因と背景を論じた。同時に、日中両国の<ミドルクラス>のイメージの構築過程に共通して見られたヘゲモニーを考察した。そして、日中比較分析を通じて、両国における<ミドルクラス>のメディア・イメージの差異を四つ抽出し、それら差異の原因を究明すると同時に、表面的な相異の背後に潜む両国の共通点をも探った。最後に、再び独自の「<ミドルクラス>の理解モデル」に戻り、従来の階層階級研究で論じられた<ミドルクラス>と、本研究で検討した<ミドルクラス>のメディア・イメージを比較した。<ミドルクラス>を構成する三つのレベル、それぞれの様相とレベル間の関連性を説明しながら、<ミドルクラス>のメディア・イメージの研究意義および日中比較研究の意義を再確認した。

## 【結論・考察】

総じて、博士課程での研究を通じて見えてきたのは、次のようなことである。すなわち、国家体制の異なりおよび時代的な差異にそれほど影響されず、〈ミドルクラス〉というものは「客観的現実」としての〈ミドルクラス 1〉、「象徴的現実」としての〈ミドルクラス 2〉、および「主観的現実」としての〈ミドルクラス 3〉という三つのレベルによって構成されたものである。そのうち、「象徴的現実」としての〈ミドルクラス 2〉——〈ミドルクラス〉のメディア・イメージは、国家の「イデオロギー装置」としてのメディアをはじめ、様々な言説による接合実践によって重層的に決定されるものであり、また歴史的・社会的・言説的に構築される政治的・経済的・文化的カテゴリーでもある。さらに、政治・経済・文化・社会といった複雑な力学の下に生成されてきた虚構と実態が微妙に混在した、政治性と戦略性を帯びた一つの神話やイデオロギーともみなされる。